

市民がつくる  
市民が学ぶ  
市民が拓く  
生涯学習情報誌

# Stage

ステージ・アップ

# up

'92

5

月号 【毎月発行】 無料

連載

● 高橋清・川崎市長の随筆



多摩川大橋



いまを話す

住民運動リーダー藤田親昌さん  
仲間の意見尊重が基本

月刊化記念  
増ページ

もくじ

随想 ■ 桜、若者は生命の象徴 ■ 高橋 清 (川崎市長) ————— 3

連載 ■ いまを話す ■ 藤田親昌さん (住民運動リーダー) ————— 4

心に残る私の一冊 ● 三浦敦子さん (多摩区) ・ 北村明延さん (大和市) ————— 7

シンポジウム ● 「多摩川を語る」 ————— 8

講演 ● 間違いだらけの「教育目標」 ◆ 米倉斉加年さん (俳優) ————— 12

当事業団の新年度事業決まる ————— 13

ステージ・アップの月刊誌移行を記念し各界代表がメッセージ ————— 14

市議会各党団長がステージ・アップへ励ましの談話 ————— 17

「かわさきコンサート」 特集 ————— 19

川崎市民の生活と学習に関する調査まとまる ————— 24

学習・文化情報 ————— 26

「ステージ・アップ」配布場所・市民の声 ————— 30

ミニ・ニュース ◆ 編集後記 ————— 31

● 随想カット — 田村あや

● 表紙絵 — 田島志織



当事業団は小田急線新百合ヶ丘駅下車、徒歩1分です

多目的ホール 研修室 会議室のご利用は

☎044-952-5000へお願いします

当事業団は 12月29日～翌年1月3日を除き 無休で開館しています 多目的ホール (504席) 研修室 (24～30席) 会議室 (20席) のご予約・お申し込みは 午前9時から午後5時まで (土曜日の午後と日曜日を除く) です

●随想● 高橋清 — 川崎市長

# 思いつくまま ②



日本列島に春の訪れを告げる、「桜前線」は、三月下旬に九州や四国の南岸をスタートし、四月月上旬には関東地方にまで達します。

川崎の春の訪れは、多摩丘陵を吹きおろす冷たい山風と東京湾からの暖かい海風の微妙な交錯を肌感じはじめる二月下旬から三月にかけて、その足音を確かめることができますが、それもつかの間、四月上旬の暖かい海風に乗って、一気に多摩川を北上してきます。

夢見ヶ崎の開花を皮切りに、井田川河畔、枳形山城跡、向丘公園と波打つようにして白い花びらが開いていく様は、理屈ぬきに自然の限りない美しさと、力強い生命の躍動を私たちに伝えてくれます。

美と生命の象徴としての桜。それはまた夢と希望、かすかな不安を胸に抱いて、社会へと巣立つ若者たちの青春の姿そのものかもし

れません。満開の桜が咲きにおう四月。今年もまた、そうした多くの若者たちを職員として迎え入れることができました。

川崎市は今年、政令指定都市になって二十年を迎えます。成人になりたての若々しい都市です。

「若者の特権」とは、少々の挫

## 桜、若者は生命の象徴

折や失望にもめげず、夢と希望の実現をめざし、果敢に挑戦することにあります。立ちほだかる壁や障害が高くても、それを乗り越えようとするとする気迫にこそ、若者のさわやかさの源泉があります。

いま、若人のエネルギーを、魅力ある川崎のまちづくりと活力ある職場づくりを生かそうと「生きいき夢パワー・かわさきイメージアップ作戦」を展開しています。

この作戦は、新入職員が新鮮で

大胆な発想と感覚の提案を行い、それを大切にし、生かす先輩たちがいて、初めて「夢パワー」から「現実パワー」に転化するのです。

この二十年、川崎は大きく変容しました。久しぶりに川崎を訪れる人たちが、川崎駅を降りて異口同音に発する言葉は「これがあの川崎か」です。「あの…」とは、かつての公害都市のイメージを指してのことでしょう。

このダイナミックな都市変容の過程には、「公害のまち」から「文化と潤いのある『人間都市かわさき』の実現に向けて、多くの先輩のロマンに満ちた挑戦があったこととを、忘れないで欲しいと思います。

しかし、人間は往々にして現状に満足し、積極的に仕事にチャレンジする姿勢を忘れがちになります。そのとき、人間としての成長は止まり、急速に心の若さを失います。

さて、新入職員が、これから積極的に仕事に取り組もうとすればするほど、さまざまな障害に突き当たり、悩まれることと思います。しかし、若い時期の挫折こそが現

状を乗り越え、新たな可能性を切り開く知恵、洞察力を生み出す源である、と強調しておきます。

さらに、どんな課題にも努力とチャレンジを惜しまず、積極的に立ち向かう若者特有の気風が、組



織を育て、活性化させる礎になるはずです。若いみなさんの存在が、「川崎新時代」にふさわしい貴重な戦力、かけがえのない財産となることを心から期待しています。

(四月三日記す)



米寿迎えた市民運動のリーダー

藤田親昌さん

いまを話す

インタビューー 丸山マサ子さん(主婦)

Vol.5



無党派住民運動のリーダー、藤田親昌さんが今春、米寿を迎えた。川崎在住三十一年間、新旧住民の「接着剤」として地域社会に貢献、平和問題でも尽力。藤田さんと運動をしている人は、異口同音「だれもが藤田さんを運動のリーダーと認めるのは、仲間の話をよく聞き、自主性を尊重するから」という。「実践が第一。論議や理論は実践のためのもの」「若者の政治、平和への無関心は、問題の根本を不明確にする勢力の責任。真剣な論議の場を」と本人は語る。

## 住民運動の命は行動・論議

## 仲間の意見尊重が基本

——早速ですが、二月上旬に藤田さんの米寿を祝う会が盛大に開かれましたが、ご心境はいかがですか。

藤田さん ありがたいことです。参加者がお年寄りから若い人まで居たでしょ。市民から行政の人まで仲間に来ていただき、堅苦しくなく、ワイワイやった面白い集いだった、とみんなが言ってくれましてね(楽しそうに)。

——私も「祝う会」に出席しましたが、芸術家や学識経験者、労働組合など本当に幅広い方々がお見えになり、藤田さんの活動の裾

野の広さを感じました。

藤田さん そんなに褒められると……。とにかく僕は一党一派に偏する活動は本当の住民運動ではないと思っています。平和運動もそうですが、活動する住民が政党から顎(あご)で使われるようなことがあれば永續きはしませんよ。あくまでも住民が自主的に動くことが大切なのです。

——藤田さんが米寿を記念し出版された『雑木林から』のあとがきの中で「僕は川崎に来て以来、つとめて川崎を生きようとしてきた」と書かれていますね。

藤田さん はい……。

——ふつう、「川崎で生きる」との言い方をしますが、「川崎で」ではなく「川崎を」の言葉に藤田さんの生きる姿勢が出ていると感じたのですが。

藤田さん ええ、よその形をここに持ち込むのではなく、この土地に芽ばえ育った生活文化を尊重し、その文化に入り込み自分の意見を出し川崎に生きたいと願っています(うなずきながら)。

——住所は川崎ですが、意識は東京という「川崎都民」がいますが、藤田さんが川崎市民になられた昭和三十六年頃は、この傾向はもっと強かったでしょう。

藤田さん そのとおりですね。旧住民が新住民を受け入れられないような雰囲気もありましたね。でも新旧住民が手を握り合わなければ住みよいまちづくりは出来ないでしょう。

——そうですね。

藤田さん 当時は生田に住んでいました。麻生区の風習はその先祖が代々、築いた文化なわけで、僕は積極的にその中に入ろうと散策にもかなりの時間を割いて、まちを知るようにしました。その頃



## 政治離れ はぐらかしが原因

水(水道)とか道路の舗装、街灯などの問題が山積してました。これは新旧住民を問わず身近な問題でした。そのうち、問題を解決するため、僕の自宅に多くの人が出入りし、論議の場になりましたね(淡々と)。

——住民運動にかかわると、川崎市民へ意識が変わる感じがしませんか。

藤田さん 運動を起こす時、多

数の住民が納得する要求でなければ自己満足に終わります。よそ者意識では、どこかで馬脚を現わし「あれは好きな奴がやっている」と批判されますよ。藤田さんは、平和運動にも熱心ですが……。

藤田さん 僕は理論も大切だが、実践がなければ何にもならないと思います。住民運動の根元には、他人と自分との関係があります。

他人の意見を十分に聞き、自分の意見と違う時は「なぜ、そうなのか」を考えます。論議を尽くすことは住民運動の命ですが、行動につながる事が前提です(手振り交えて)。

——藤田さんが、多くの人と長いお付き合いできる秘訣が分かった気がします。ところで一昨年から(湾岸戦争などで)平和の在り方が問われていますが、若い人の関心が薄いようです。

藤田さん なぜ、こうなったのでしょうか。国会論議をみても、根本問題を明確にしない。はぐらかしに終始している。こうした傾向が蔓延(まんえん)し、若者をしらけさせている。真剣に論議できる場が必要です(残念そうに)。

——藤田さんは奥様やお子様を怒ったことがなく、納得するまで話し合うそうですが……。

藤田さん はい。平和には、小さい平和と小さな平和とがあり、小さい平和を大切にすればいいと、大きな平和問題に目が向かないのです。

——小さな平和ですか？

藤田さん 夫婦喧嘩とは、話し合いを否定、家庭の平和を乱すこ

### 藤田 親昌さん

ふじた・ちかまさ=明治37年1月、神奈川県鎌倉市生まれ。代用教員、法大文学部入学を経て昭和5年、中央公論社に入社し19年、治安維持法違反で逮捕される。敗戦後の22年、文化評論社設立。36年から川崎市民、民生委員、教育委員、多摩区文化協会会長を歴任。50年、川崎市文化賞受賞。市民の会や平和などの住民組織代表として活躍。自宅は麻生区細山。家族は妻由紀子さん、長男朝也さんら。

とでしょ。この二月、姉が高校受験を控えた妹を殺害した事件がありましたね。これは教育の間違いで起きた事件ですよ。子供は大きな流れの中で成長する。その流れの学校、家庭が変になっています。親や先生が、子供に「他人に喜ばれる行為をすると、自分の心が和む」という体験をさせていない。こうした体験を積み重ねれば平和意識は育ちます。現実には、大人が子供達に「自分だけが良ければいい」と、態度や言葉で示していませんか？平和な家庭、体罰・いじめのない学校は、平和問題の基本です(うなずきながら)。

## 生涯学習

## 物事考える手立てとして

## 自由に話し合える場に



です。

藤田さん 欧米のサラリーマンは、地域での貢献は常識ですよ。

——さて、藤田さんは第二次世界大戦中、政治犯で拘留された苦い体験をされていますが……。

藤田さん 当時、中央公論社にいまして、小林多喜二(プロレタリア作家。一九三三年、治安維持法違反と不敬罪で逮捕され、警察の拷問で殺害された)に書いてもらった。これに特高警察が目を付けた。「共産党再建に加わった」と逮捕。否認を続けましたが、でっちあげを拷問で認めさせようとし、僕の歯が全部折れた。入れ歯はそれ以来です(憤りの表情で)。

——当時は国賊でしょ。奥様を初め家族の方も大変だったでしょうね。

藤田さん それは本人に聞いてください(由紀子夫人を呼ぶ)。

由紀子夫人 すでに子供が三人

おりまして……。あの当時は、すべての物が配給制度で頭数で割り当てられます。ご近所には主人は海外に出張していることにしていました。主人を頭数に入れようとしたくない近所の奥様がいました。それは辛かったですよ(しんみりと)。ただ、主人への信頼は揺るぎませんでした。「くよくよしても事態は変わらない」と生きていました。私は今でも子供に「心配して、なにか変わるの」と言います。この主義は主人が逮捕された時も貫きました(力強い口調を笑顔で)。

——奥様にまでご登場願って恐縮です。最後に生涯学習でもっとも大切にすべきことは何でしょうか。

藤田さん とにかく、学校も家庭も形だけ整えて、本来の内容が伴わなければ駄目です。子供も大人も自主的に物事を考える習慣を身に付ける必要があると思うのです。生涯学習が、偉い先生を講師に招き、一方的に講演するやり方は改めるべきでしょう。市民が自主的に物事を考える手立てとして、他人の主張を尊重しながら、自由に活発に話し合える場こそが生涯学習の姿だと思います。

——貴重な時間、ありがとうございます。



## 丸山マサ子さん

まるやま・まさこ=昭和15年、新潟県新潟市生まれ。山口大教育学部を卒業後、東京で40歳まで中学・高校教諭。同49年から川崎市民。住民組織の「武蔵工大原子炉を考える市民の会」「地球環境研究会」に参加。現在、「麻生放射能問題を考える会」代表、「川崎市民の寺子屋」事務局員。自宅は麻生区千代ヶ丘。家族は大学職員の夫、会社員の長女、大学生の長男、高校生の二男。

(「いまを話す」の題字は高橋 清  
・川崎市長。協力：麻生市民館。  
構成・文責 田中 園)

石川達三著 泥にまみれて

妻の愛に支えられた夫婦

川崎市多摩区生田 主婦 三浦敦子さん

二十歳の頃、この本を手にし陽の当たらない寮の部屋で、一人涙を流しながら読んだことが忘れられず、取り出して読んでみた。

「無事に帰ってくれたでしょう」



私に読書を親しむきっかけを与えた本は、この「青き狼」である。戦時中に青春時代を過ごした私は、読書の機会に恵まれぬまま、志願兵として出征し、五十路に至るまで読書の華美な味を覚えるゆとりすらない、無為ともいえる歲月を過ごした。

ある日、ふと手にしたこの一書が、私を虜にし人生を様変りさせ

ね。一人娘の園子が、恋愛と結婚の喜びに陶醉していた矢先、夫が旅先で浮気をしたと、親元に泣きながら帰ってきた。母はその子を無碍（むげ）に追い返した。本はその場面から書かれています。

母は娘に自分の半生を語り、教育の苛酷さを示す手紙を書く。愛情・結婚・男女の本質的相違・な

井上靖著 青き狼

臨場感ある文学で活眼

大和市福田 会社員 北村明延さん(65)

ぜ夫婦であり続けるかを。

男は、常に理想の女性を探し求める。心の半分だけで結婚をし、

後の半分は、自由であり拘束から逃れるためには、何者をも犠牲にする。つまり二重人格者なのだ。

だから妻は、自分の心を母の愛にまで高めることで、心の安らぎと夫を所有し自分も生きられる。

「泥に……」は、妻の愛に支えられた夫婦の姿を描いている。現在、命がけの愛を妻に求める夫婦形態は崩れてきた。男女ともに、求める愛に変わってきている。

そこに、夫婦の危機や家庭の崩壊、結婚したからない社会がある。作者はこの状況を先読みして、書いたのではないのか。

女性の多様な生き方への選択は作者も認めているが、真摯（しんしん）に生きるには、その形態・表現・結果にとらわれない愛が必要だ。

何をもって夫婦と成すか。作者は「迷宮こそ夫婦関係」という。私は、何事も明確さを求めないフアジイな関係が真の夫婦ではと思う。反論を期待する。

隣諸国を平定した。

主人公らは、さらに未知への大冒険を試み、アルタイの雪山を辿る壮絶なるシーンは、冬山の実態すら知らない私をタイムスリップの世界へと誘ってくれた。

集団が、軽装備でアルタイの山々に挑む展開に「近代の冬山でも遭難死を招くことが多いのに……」と、そんな思いで読み進んだ。

そこには、井上文学の史実に基づく未知への夢の挑戦や強烈な想像力を駆使した臨場感がひしひしと迫る。私はその不思議さにつきり魅せられてしまったのである。

これを縁（えにし）に、私の読書熱が盛り出し、何千冊かの書に親しむことができた。苦手だった文章を書くことにも興味を覚え始めたことを幸せだと感謝している。

ご投稿をお待ちします

一行15字、42行です。

## シンポジウム 多摩川と語る

## 《パネラー》

柴田隆行さん 多摩川の自然を守る会  
佐藤 厚さん 川崎市歩け歩け協会

菊池和美さん 稲城の自然と子供を守る会  
伊藤弘一さん 川崎サケツ子の会事務局  
司会: 齊藤 博・和光高校教諭

——多摩川は昔から「母なる川」と呼ばれてきました。先人たちは魚や川の幸を採集したり、水をひいて米作づくりをし、舟に荷を積み向こう岸に行くなど多くの恩恵を受けてきました。その川が文明の影響で汚染物質の捨て場になり、多摩川が都市に殺され兼ねないと



柴田 隆行 さん

## 身近かな自然に目向けよ

## 「ずるい生き方」反省し活動

柴田さん

市民企画講座「多摩川と語る」(当事業団主催)の今号の紹介は「多摩川を愛する人たち」によるシンポジウム。パネラーは別項の四団体の代表で、さまざまな角度から多摩川が人間だけでなく、動植物の「母なる川」であり、人と生き物たちの共生の場であることを明らかにした。いま、ウォーターフロント(都市の海や河川に面した水際地区)にスポットが当てられている。それが都市に残された広い地域の「最後の広大な開発」なら、取り返しのつかない環境破壊になろう。改めて「多摩川はだれのものか」を問いなおそう。

心配しています。抜本的対策を講じて汚染を無くし、そこに生きるさまざまな動植物と共生できる環境にしなければなりません。それでは日本の自然保護運動の草分け「多摩川の自然を守る会」の柴田さんお願いします。

柴田さん 会に入り二十年になります。三点について述べます。それは、身近な自然の大切さ▽自然は無限に内容をもつ情報源▽生活者の立場の強みについてです。

約二十年前、南アルプスのスーパードライの計画があり(その後完成)私は山男として反対しました。

この時、役所から「地元は賛成なんだ。よそ者が田舎生活を続けろというのか」との反発があると言われました。

大都会に住む人間は、利便性を追求し自然を破壊して、たまに自然を求め山に行くずるい生き方です。私は「山の人に胸を張れるように」と身近な自然保護に目を向けて、首都圏にも豊かな自然が残っているのに気がきました。

そして本当の自然とは、子供の頃から親しんで、体に身に付いた自然。小さいとき泳いだ多摩川が自然なのだと思います。

そうした目で多摩川に接すると、四季折々にいろいろな呼び掛けがあるのです。季節に応じ、いろいろな鳥が鳴き、小さな花が咲いているのに気がきます。

当会は、月一回の観察会を開いていますが、例えばハコベの花びらは何枚あるでしょう。十枚ある



齊藤 博 さん

市民企画講座

# 官民一体で健康社会を

河川敷の桜木  
国がハツサリ 許せぬ自然への残虐

佐藤さん



佐藤 厚 さん

ように見えて、実は五枚しかないのです。私は多摩川を百回歩くだけで、みなさんを一日中、楽しませる自信があります。それほど自然は豊かで、情報源があり、多様に満ちています。

さて、私たちは行政の人と多摩川の施策について話し合います。行政マンはその専門家で、私はそ

れを職業にしています。けれど、対等に話し合えます。それは生活の中で自然を、現場を良く知っているからです。専門的知識には客観性がある、と言われています。

だが、客観的事実とはガレリオ・ガリレイが主張した「自分の目で確かめる」ことです。これは近代科学の出発点です。

○\*、二〇\*、一〇\*の各コースを歩き、一九九一年には七万人が参加しました。同協会を財団法人として認可したのは環境庁ですが、その長官も五〇\*歩きました。

今後、高齢化社会がさらに進む中で行政、市民が一体となって「歩け歩け運動」を推進して病気を克服、健康な社会をつくりましょう。

私たちは、多摩川をホームグラウンドにして今後も歩き続けます。

また、多摩川河川敷では五本の桜が切られる「事件」がありました。木を切った建設省は「一層以上の高い木は、水はけに影響する。法に基づくもの」としています。

しかし、私は自然に対する残虐行為だと思っています。

お役所の考え方は不便で、法を盾に市民が発想するまちづくりと対立する場合があります。柔軟な思考で将来を考えれば、硬直した法解釈であのような行為は出来な

いはずで

# 子が川に接する生活へ

自然保護地域に指定して

菊池さん

—つぎに「歩け歩け協会」の佐藤さん、お話ください。

佐藤さん 私は自由な市民でありたいと思います。当協会は五年前、稲田堤から川崎大師までの多摩川沿いを歩きスタートしました。多摩川河川敷には公園であり、広域避難場所になって

いますので、市民の憩いの場、安全の場と言えます。

当協会は、成人病の六、七割は歩くことにより克服できると考え、「歩けるうちに歩きましょう。一度歩いたら続けましょう」と呼び掛けています。

そのお手本はオランダです。同国は八十年前から四日間、いろいろなコースを歩く「ホーデーマーチ」をつくり、国民的行事として定着しています。

わが国でも、日本歩け歩け協会が十一月三日前後に三日間、「スリーデーマーチ」を設け五〇\*、三

—引き続き「稲城の自然と子供を守る会」の菊池さん、お願いします。

菊池さん 稲城市は、多摩川に面し川崎市のお隣りで人口は約五

が数年前、三本の桜の木が枯れ、そのまま放置されました。誰かが「二代目」を植えました。勝手に植えると「河川法に触れる」ので、自然に生えたとします。

万人です。会が発足した五年前までの稲城は、都会から離れた眠ったような街で、多摩川の支流では子供が胸まで水につかり遊んでいました。私はそんな街が好きでし

## 市民企画講座



菊池 和美 さん

たが、ニュータウンの開発が始まり、街が急激に変容し始めました。私は子供の頃、川で泳ぎ川の水を飲んだ経験があり、今も多摩川に囲まれて暮らしています。でも現在の子供達には、川との触れ合いが極めて少ないのに気付き、「自分の子供だけでも川に接した暮らしが出来ないようにしたい。近所の子供達もそうした生活を過ごせれば」と考え会を作りました。

会では年数回、多摩川で野鳥観察会を行うほか、観察会プラスワンを目的にした行事もしています。例えば、竹の子掘りをした後、農家の方と話し合い、こまめに土を手入れする事が農業を営む上で欠かせないと聞き、環境を深く考える機会になっています。

また、緑地や水辺を増やすことは大気汚染の減少に役立つとPRする一方、「大気汚染測定日」を設け、小さなカプセルを二百人に配

り、そのふたを開け二十四時間、大気にさらして回収。主に車から出る窒素酸化物を測定、大気汚染への関心を高めています。

さて、多摩川について同市は「多摩川を利用する市民が少ないので利用率を高めたい」としています。私は、川は人間だけのものではなく、鳥や魚、植物など命のあるものが集まる場所で、行政に「人間と動物が共存できる施策を」と要望します。

## サケ飼育で家族の絆強く

### 台所からの水質汚濁に関心

伊藤さん

——「サケツ子の会」の伊藤さん、ご発言をお願いします。

伊藤さん この会は昭和五十八年から「サケと子供と川」をテー

マに活動をはじめました。当時は高校生が荒れた時代でした。サケは成育すると自分の生まれた川に戻ります。大挙して川を上り卵を生み落とします。このようにロマンのある魚との触れ合いによって、少しでも潤いある社会になればと願って結成しました。

現在、稲城市は開発が目白押しで、その中にホタルが飛び交う遊水池があり、これを守ることは今後の開発や自然を守る上で大きな意義があると考えています。

しなればと、年一回、子供達と多摩川の数地点で水質の勉強をしています。

水が比較的きれいなのは、最下流の大師橋付近で、満潮のとき海水が上がってくるからです。汚れているのは、二子橋とガス橋の間で、青梅市から下流は生活排水が流れ込んでいます。会の子供達は母親に「生活排水も川の汚れの原因の一つ」と話しています。

毎年二月の第三日曜日に、二子橋から稚魚を放流しています。その前に、各家庭で卵を飼育してもらいますが、子供だけでは水を替えたり、観察するなどの飼育は困難です。家族が協力し、約五匹に育てた稚魚を家族と一緒に放流するので。

今、家庭で親と子が、兄弟が、祖父母と孫と一緒に話し合う場が少なく、共同して何かをやるケースは、ほとんどありません。サケを通して家族の絆が深まり、台所からの水質汚濁を考え、自然と生き物と人間の関係を考えるようになることに意義を見出し、今後も活動を続けます。

（この後、パネラーから補足発言があり、参加者が討論した。）



伊藤 弘一 さん

# 外国人に日本語を教える

## あいっえおの会

けいこくごをまなぶ

### グループ紹介

「あいっえおの会」は広川和子代表ら十五人。毎週水曜日午前高津市民館で外国人や日系三世に日本語を教えている市民ボランティアの会。



## 会員の個人教授で...

### 言葉を通しての国際交流を

イアの会。「国際識字年」の昨年六月、産声を上げた。

以前から同市民館で「文章表現講座」や「暮らしと人権講座」を学んだ広川さんらが、漢字が読めない、言葉が話せない故に差別や不利益を被っている人が大勢いるのに驚き結成した。

同会に学びに来ていた人は中国、韓国、タイ、フィリピン、日系ブラジルなどの十四、五人でほとんどが女性。

全く日本語が出来ない人からある程度話せる人までマチマチで、教える内容が一人一人違うため、マンツーマンで指導し、会員はフル回転で頑張っている。

また会員が他国の言葉に堪能とは限らず、言葉の壁は筆談などでカバー。各国の慣習の違いから誤解を招かないよう「お国事情」も勉強中。

新たに入会を希望「お役にたきたい」と連絡してくる市民もいるが、仕事の内容を詳しく知ると二の足を踏む人があり、会員が増えないのが悩みという。

夜間開講の希望もあるが、主婦が中心で実現は困難。運営費は教育委員会から委託費、年間十万

円を充て、研修費や交通費は会員の持ち出し。

日本男性と結婚して昨春、来日したタイ人の大柳スパワラットさん(35)は昨年十月から一回も休まずに同会に通い、今ではカタコトの会話を話せるようになった。

夫が東工大の留学生で、中国では医師の豊艶さん(34)は「ここは楽しく先生がとても親切。家庭的な雰囲気が好き」と話す。

しかし、ボランティアの一人は、「日本ではスーパーで買物をする時は一言も話さずに済みます。彼女たちは家では母国語で話し、日本語を使うのはここだけ。でも字が読めないと駅でキップも買えないなどの不便があります」と話す。地域社会が外国人とフランクに交際するには程遠い状況も日本語習得を遅らせているようだ。

広川代表は「言葉を通じての国際交流に貢献できるように、地域に根をおろし地道に活動していきたい。地球上で人間同士が仲よく暮らす事が私の希望です」と話す。同代表宅は多摩区壘三―四、二一―二〇一、☎044-833-6672

(取材・松本 成代)

川崎市麻生区のトウエンティ  
ンホールで、このほど、劇団民芸  
の俳優で演出家、米倉斉加年さん  
が「私のメルヘン」と題し講演し  
た。麻生区役所、区民ふれあいセ  
ミナー実行委員会など主催、川崎  
市生涯学習振興事業団の共催。  
米倉さんが、埼玉県のある学校  
で講演した時、額の「教育目標」  
に①たくましく生きよう。②なか  
よく助けあおう。③わかるまで学  
ぼう。——があった。



民芸俳優の  
米倉さん講演

戦争中、僕が小学四年の時、満  
一歳の弟が栄養失調で死んだ。そ  
のことを本にし七年前には、中学  
一年生の教科書になった。毎年、  
多くの方から感想が寄せられる。  
長野県の養護学校の生徒は「い  
ま世界中で死んでいく子供がいる  
戦争の中で、戦争がなくても死ん  
でいく。これは、きのうの話で  
はない。今日の世界の話だ」と感  
想をくれた。  
機会をつくり、山の中の病院に

付設された養護学校を尋ねた。生  
徒は中学生四人だけ。感想をくれ  
た子は筋萎縮症で、足が次第に動  
かなくなる。治る見込みはない。  
僕は「あの子は自分の命につい  
て予感している」と思った。痛ま  
しさや気の毒との感情より、人間  
の素晴らしさ、生きることの意味  
を教わった。  
「たくましく生きよう」の標語  
を見て、その中学生が頭に浮かん  
だ。「たくましい」の語感、体の

## 誤りだらけの「教育目標」

### 嫌な奴とも助け合う社会を

間違いだ。人間は仲が悪い人とも  
助け合えるかが問題。電車の中で  
お年寄りが立っていても客席を譲  
らない子供が多い。学校で標語の  
教え方をしているからか。  
家庭を考えても、夫婦がそんな  
に分かり合って仲がいいか。分か  
れば「将来の見込みがない」と離  
婚も。分らないからお互いが理  
解しようとする。嫌な奴とも助  
け合うのが真の人間社会と思う。  
最後の「わかるまで学ぼう」だ

国際社会の中で「日本流」が正  
しいと思ひ込みトラブルを起こし  
ている。日本文化を身につけるこ  
とと、相手国の文化を理解しない  
ことは全く異なることだ。「分か  
らない」と思った時、相手を尊重  
する姿勢が生まれるはず。  
かつて、日本は一斉に「分かっ  
た」と、戦争に突入した。みんな  
と一緒に意義は否定しないが、少  
数意見に耳を傾けることは極めて  
大切で排除してはならない。  
「いじめ」の問題も、それを止  
めさせる方策を出しても解決にな  
らない。みんなが社会の場で、生  
活の中で、助け合うことを学ぶこ  
とでのみ解決する。

イメージが強い。あの子がこの標  
語を読んだらなんとと思うか。なに  
を基準にたくましいと言うのか。  
障害者に対する言葉に健常者が  
ある。健常とはなにか。体の何か  
が劣っていると、人間としていけ  
ないのか。  
人間の生き方は、上が決めるの  
ではなく、自分で求めるのだ。弱  
々しく生きようが、自分に合った  
生き方を精一杯すればいい。  
また「なかよく助けあおう」も

が、授業で先生が「分かりました  
か」と聞き、児童が「分かりまし  
た」と答え一件落着になる。児童  
が「分かりません」と言えば、先  
生に「授業中なにをやっていた」  
と怒られるだろう。  
僕は「学校、勉強は退屈で面白  
くない」との偏見をもっている。  
だから通学しなければいけないの  
だ。大人になると面白くないこと  
が続く。学校はそれに耐えるけい  
こ場である。

最近の社会を見て、勤勉で向上  
心のある人間が間違いで、あまり  
働かず怠惰の人が真の人間に思え  
てならない。民話「さんねん寝太  
郎」は嘘つきで怠け者だと読ませ  
ない学校がある。だが寝太郎は、  
溜めた金を地主に巻き上げられる  
なら、程々に働いたほうがいいと  
思い、嘘をつき相手は地主や欲深  
い人間に限っていた。  
多様な価値観を認め合う社会こ  
そが健全であり、そうした社会の  
出現を期待している。

## 潤いとゆとり、知的生活をめざす生涯学習社会へ9つの柱

## 川崎市生涯学習振興事業団の新年度事業決まる

謹告 当事業団の平成4年度事業がこのほど決まりました。「市民がつくる 市民が学ぶ 市民が拓く 生涯学習」を基調に、みなさまのお役に立つ9本柱の事業を展開します。

## ■市民講座の企画スタッフを募集します

昨年の市民企画講座「多摩川と語る」「こころのセミナー」は、20人の市民ボランティアが討議を重ね講座内容を決め、各人が講師の選定・交渉、PRを担当「市民が築く学習」への第一歩を記しました。あなたも企画スタッフになりませんか。

◇ 申し込み 4月15日午前9時から☎952-5000の当事業団で受け付けます。

◇ 募集人員 約20人 ◇ 任期 平成5年3月31日まで。

## ■資格取得支援講座を開講します

事業名	日時・回数	会場	定員	受講料・教材費等
行政書士	4年5月9日～ 9月6日、全16回	中原市民館 総合自治会館	30人 (定員を越えた場合は抽選)	3万円 1万5千円
宅地建物取引主任	4年5月9日～ 10月10日、全21回	当事業団	50人(同)	3万3千円 5千円
社会保険労務士	4年10月～5年5月	当事業団	40人(同)	5万円 2万1千円
TOEIC検定	5年2月～5月	中原市民館	30人(同)	2万円 6千円
消費生活アドバイザー	5年1月～7月	当事業団	50人(同)	2万8千円 2万7千円

## ■初・中級ワープロ・パソコン講座を開きます

事業名	日時・回数	会場	対象・定員	受講料・教材費等
初めてふれるワープロ	4年6/2,6/4,6/6 全3日 午前10時～午後4時	教育文化会館	30人 (定員を越えた場合は抽選)	7千円 千8百円
初めてふれるパソコン	4年7/7,7/9,7/11 全3日 午前10時～午後4時	教育文化会館	30人 (定員を越えた場合は抽選)	7千円 未定
親子でふれる 初めてのパソコン	4年7/28,7/29,7/30 午前10時～午後3時	教育文化会館	15組の親子<小学5・6年> (定員を越えた場合は抽選)	1万円(1組) 未定
さらにワープロを使いこなす ～カード・はがきをつくる～	4年9/29,10/1,10/3 全3日 午前10時～午後4時	教育文化会館	15人 (定員を越えた場合は抽選)	1万円 未定
さらにパソコンを使いこなす ～家計簿・献立表～	4年11/10,11/12,11/14 全3日 午前10時～午後4時	教育文化会館	15人 (定員を越えた場合は抽選)	1万円 未定

## ■「かわさきコンサート」と「公開オーディション」を開きます

詳細は19頁～23頁に掲載しました。ことし3月に開いた「ジャズコンサート」は継続の方向で検討中。プログラムが決まり次第、発表します。

## ■生涯学習情報誌「Stage Up」が月刊誌になります

「Stage Up」は今号より月刊誌になり情報量が大幅に増えます。これを記念し各界代表から頂いたあいさつ、お祝辞は14頁～18頁に掲載しました。

## ■生涯学習情報システムを構築します

文化、学習、余暇、グループ活動、人材などの情報をみなさまに提供するため、教育文化会館内にホストコンピュータを設置、市民館とのネットワーク化を図ります。

## ■高齢化社会に対応した生涯学習の研究・調査をします

高齢者が生き生きと生涯学習に参加できる学習システムの創設に努めます。

## ■川崎の児童が自然に恵まれた地域の児童と交流します

川崎の小学生が、豊かな自然環境の中で一定期間生活をし、地元の児童と交流する「小学生交流イベント事業」を行います。こども達が新しい体験を通して、自然保護の大切さや大都会とは異なった生活の良さを見出すことでしょう。

## ■学校5日制に伴う「遊びの広場」を開設します

今年9月から月1回土曜休校、学校5日制が導入される予定です。PTAや関係者のご意見、ご協力を得て、こども達が目を輝かせ連帯と喜びの輪が広がる遊びを創造します。

# 小誌を生涯学習の道具に

高橋 清・当事業団理事長(市長)あいさつ

若葉が薫る季節になりました。市民のみなさまには、日頃から生涯学習社会の発展のためご尽力を頂き、心から感謝を申し上げます。

さて、川崎市生涯学習振興事業

団発行の生涯学習情報誌「Stage Up」が、今号より月刊誌になりました。これを機会に、みなさまのいっそうのご愛読をお願いし、生涯学習のツール(道具)としてお役立て頂き、「友」のような身近な冊子にお育てくださることをお願い致します。

当事業団は発足して、この五月で満二年を迎えました。この間、生涯学習社会の一翼を担い、行政と民間の中間的領域の中で、市民の方々の学習、文化・スポーツ活動を支援してまいりました。

お陰さまで、みなさまの深いご理解とご協力、そして、なによりも高い学習意欲に支えられ、着実に歩み続けることができました。「Stage Up」は、川崎全域で開かれる生涯学習・文化・ス

ポーツ情報をネットワークすると同時に、文字通り「市民がつくる市民が学ぶ 市民が拓く 生涯学習」のお手伝いをする市民参加の冊子でございます。

小誌の「いまを話す」は、市内の第一線で活躍のみなさまをゲストに迎え、主婦がインタビューストに迎え、ゲストの生き方や考え方に接することを通して、読者にさまざまな問題を提起し、人生の糧になることを願って掲載しております。

また、当事業団が市民のお力とお知恵を拝借して開講しました、「市民企画講座」の講義要旨を小誌に掲載、この講座に参加されなかった多くの方々に講座内容を共有して頂いております。

さらに、感動した本と実生活を結び付けた新趣向の書評欄「心のこる私の一冊」「心のこる生涯の一冊」を改題)や「市民の声」の投稿欄を設け、市民参加の紙面づくりに努めております。

ところで、当事業団はこれまで

に、市民の学習ニーズを把握するための市民意識調査の実施、生涯学習に関する情報の提供・相談、消費生活アドバイザーなどの資格取得支援講座や市民企画講座の開催、ジャズコンサートの開催などを行ってまいりました。

平成四年度は、これら事業のいっそうの充実を図り、新たに学校五日制に対応した生涯学習体系の研究▽高齢者の生きがいと活動の場の提供▽地域活動、ボランティア活動と連動した生涯学習の条件整備と研究などの事業の推進を図ってまいります。

いま、わが国は「人生八十年時代」を迎えました。このことは歴史上はじめて、自分の余暇を生かして、好きな分野の学習が十分に深められる時代の到来をも意味しているのではないのでしょうか。

私は今後、いっそう「生涯福祉都市づくり」に邁(まい)進し、市民のみなさまが、潤いある知的生活を送れる地域社会を構築する決意しております。

市民のみなさまが、ますますご健勝で有意義な市民生活を送られますことをお祈りし、あいさつと致します。

地域教育会議の試行は、三つの働きをしほりこむことに成功した。実行組織のネットワークをつくり出すしくみである——調査し問題を提起するしくみである——広報によって地域に討論の場を設計し維持・発展を図るしくみである。

## 教育に討論の場を創り出そう

湯上二郎・川崎市社会教育委員会議長

川崎の社会教育委員会議は、かつて市民討議の中に、「生涯学習」があると規定した。民主主義の基礎としての市民討議が学習として成り立つたためにはシクタンクの働きがなければならぬ。何が問題なのかについて調査と研究が続けられねばならない。

## 月刊で市民の要請にこたえる

野村敏行・川崎市議会議員

市民の多くのみなさんが待望していた生涯学習誌「Stage UP」の月刊化、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

近年の流れが決して穏やかではない社会においては、市民の価値観、ライフスタイルが著しく多様化しております。

とくに余暇志向が強まり、社会活動への参加など、生活の質の向上、精神的な豊かさが求められ、生涯学習への関心が高まっています。いわゆる「学習化社会」の傾向が顕著に表われてきていると感じられます。

それらの学習の成果は「気分転換」「趣味・楽しみ」「友達関係の広がり」「健康管理」など精神的な健康面における生活の充実に大きく寄与しております。

民が豊かな人間性と充実した生活を実現します。そして、地域社会と深い関わりをもちながら、活動の展開を図ることが二十一世紀に向かって活力ある社会を築く大きな柱であります。

しかし、せっかく、学習意欲がありながら、さまざまな阻害要因のため、これを実行できない方も多いことでしょう。

その要因の一つに「必要な情報を得にくい」ことがあげられます。情報化時代と言われて久しくなりますが、生涯学習の具現化のために、自ら行動を起こすためには、氾濫（はんらん）する情報の中から、いかに必要とする情報を的確に得られるかが大切なポイントになると思います。

このたびの「Stage UP」の月刊化は、このような生涯学習に対する市民の要請にこたえるものです。講演、催し、ステージなどの案内やサークル活動の紹介、市民の声など学習導入への手がかり

になる重要な情報がいつそう充実され、更なる成果を得られるものと期待しております。

私たち市議会は、人生八十年時代に対応した高齢者が、自ら生きがいのある生活を送れるよう、学習活動や社会参加への施策の充実、家庭・地域の教育機能の活性化に努力致します。また、学習活動の拠点となる社会教育施設の整備、学習活動の指導者養成など市民ニーズに的確にこたえた生涯学習の推進を改めて表明します。

末文にあたり、月刊「Stage UP」が「市民がつくる市民が学ぶ 市民が拓く」という素晴らしい編集方針に沿い、ますます紙面を充実され、より多くの市民のみなさんに愛読されますことを期待致します。貴誌が更なる飛躍をされますよう祈念して、お祝いの言葉とします。

出生率の低下は、公的年齢の土台を崩すことにつながることをはっきり見届け、世代間の、あるいは世代間の新しい合意の方向を見付けだしていかねばならない。川崎にとつて高齢化はさし迫った政策課題である。

社会的合意は、正しい問題提起をベースに対立する立場をふまえた討論が続けられてはじめて可能である。討論の「質」が問われているといつてよい。そして合意は、多様な実行組織によって別々にあるいは共同して実践され、その効果は丹念に追跡されねばならない。

いま、川崎市における教育改革は、学校週五日制導入への対応をてがかりに生涯学習推進計画の実施として動き出した。その実質的な「にないて」は、教育を変えようとする市民のしくみとしての地域教育会議である。ステージアップの月刊化は、地域教育会議の三つの機能の発展に、そして川崎市における着実な教育改革の発展に大きな役割を果たすことになろう。ステージアップの月刊化はすばらしいパワーアップの可能性をほらむ。それだけに決して基本方向を誤ってはならない。

## 新鮮で充実した紙面を喜ぶ

田邊二三男・川崎市PTA連絡協会長

生涯学習情報誌ステージアップが刊行をして、はや一年、この間に七号が発刊されました。

私も、生涯学習社会形成を担うPTAの一員として、全号くまなく読ませていただきました。副広い視野に立った編集方針、市民の学習グループの生き生きとした活動、各分野でご活躍の市民の人物

にとらわれず、現実在即した判断が求められております。このためには生涯を通しての絶ゆまぬ学習が必要であります。

しかし、その学習に必要性を理解している人も決して多数とはいえません。また、学習したくてもその方法がわからない、時間がとれないなど様々な課題がございます。その意味でステージアップが月刊化され、そこを通して生涯学習の必要性が周知され、また、さまざまな学習機会や方法の情報が

提供されることは、大変意義あることと思えます。

私もPTAにおきましても十万人三千人の会員に対し、広報紙「市P協かわさき」を年三回発行し生涯学習への会員の理解と協力をお願いしているところですが、今後、情報を相互に十分交換し合いながら、充実に努めてまいりたいと考えております。

代わりに、生涯学習情報誌ステージアップの月刊化をお祝いし、ご挨拶とさせていただきます。

## 川崎らしさと民主々義を荷って

今井克樹・川崎の生涯学習を語る市民サロン代表

民主主義の深さは、人びとに、いかに「参加」と「公的反対・異議」の権利が保障されているかによつて測れるという。

そして、これらの権利の行使は、人びとが、いかに広範に・正確に・系統的に「情報」を得ることができるといふことと、人びとが、情報を要求・受容し、それを行為に転化できる能力をいかにもちうるかということに、かかわる。

政治・行政の「情報」を、広範

に・正確に・系統的に伝達することには、政党・議員と行政の、民主主義的第一の課題とされている。

また、政治・行政の「情報」を得、「参加」「異議」という市民的行為に結びつける力をもつ——「市民」としての自立を達成するために、それにふさわしい「学習条件」を整えられなければならない。その「学習権」について、ユネスコは「宣言」し「勧告」している。

「学習権とは、質問し：想像し創造する権利であり、自分自身の世界を読みとり、歴史をつづり、教育の手だてを得る権利である。：学習権は、経済発展のたんなる手段ではない。学習行為は、人間行為を出来事のなすがままにされる客体から、自分自身の歴史を創造する主体に変えていくものである」

「成人教育は：政治的・経済的・文化的・科学的の生活に「参加」する権利の行使を容易にするもの」

「成人教育の目的は：今日の問題と社会的正義を達成する：能力を発展させること」とうたう。

## 批判も掲載、個性的紙面

原 修一・自民党市議団長

「Stage UP」の月刊化の発行おめでとうございます。

「Stage UP」は、(叻)川崎市生涯学習振興事業団の発行する、「生涯学習誌」として、市民がつくる・市民が学ぶ・市民が拓く、平成二年に創刊した市民に対する学習及び文化等を中心に情報をユニークな紙面構成で提供しています。

一般に、情報誌は発行する側が意図した方向に誘導するなど、一面的な構成で紙面を形成するものが多いなかで、「Stage UP」は、「市民の声」欄を積極的に提供し、市民の鋭い批評を受け入れるなど、他の情報誌とは違った一端を伺うことができます。

高齢化社会が重要な行政課題として、我々議会人も市民と一緒にスクラムを組み「生涯すべて学習」を、合言葉に一層の努力を傾注したいと考えています。

今月より「Stage UP」が、隔月から月刊へとパワーアップして再出発することですが、多様化する市民ニーズに即応した、「生涯学習誌」として、期待します。

## 月刊誌への飛躍を祝う

渡辺好雄・社会党市議団長

生涯学習情報誌は発行以来、多くの方々から親しまれ、大きな実績を上げられ、五月号より月刊誌に飛躍されたことに心からお祝い申し上げます。

いまや生涯学習は国、地方を通じて、大きな政策課題になっております。川崎市では、平成三年度に生涯学習基本調査を終え、本年度はその推進計画が策定されます。

先般、私の代表質問に教育長は「基本構想は四本柱で構成されているが、このうち『地域の自立と交流をめざす』『開かれた学校体系を求めて』の二つの柱を研究、協議している」と答弁しました。

私は、生涯学習の創造に向け、特に大切なのは、地域から生涯学習を推進する市民の自主組織「地域教育会議」の在り方、学校施設の開放の実施などにあると考えております。

「Stage UP」が、今後とも市民の学習、文化、スポーツなどのニーズにこたえて制作され、より生涯学習時代にふさわしい情報誌に発展するよう期待します。

## 学習意欲の向上に寄与

松島輝雄・公明党市議団長

豊かな生きがいのある平和な社会の創造——人生80年時代を迎えて生涯学習の必要性が叫ばれている今日、個人にとっても社会にあるてもその内実化と実践化による自己実現の手段が模索されております。

21世紀を目前にして、生きる人間にとって高齢化社会の重みに耐える力や情報化社会での適切な判断力、国際化社会への対応力など激動する社会への柔軟な構想と実行力が期待されております。

本市ではこれらの課題にこたえるために「生涯学習振興事業団」を設置し、市民の多種多様な学習ニーズに対処しております。

「Stage UP」はそのニュース誌としての適切な啓発・情報提供誌として使命を果しておりますが、このたび隔月から毎月発行へと前進したことは学習意欲の向上とともにまことにタイミングの良い朗報であります。

「Stage UP」が灯台として道標として市民から愛され活用されることを念願いたします。

## 共感覚える本誌の内容

市村護郎・共産党市議団長

Stage UPが隔月発行になり、内容が一号一号充実していくことに期待をし拝読させて頂いています。市の文化情報誌への広い分野からの市民参加を市議会内外で主張してまいりました。その点、自主的な文化、学習サークル活動や心に残る生涯の一冊の紹介など、同じ市民の人々の生きずべ、感性にふれ、共感をおぼえます。

生涯学習市民討議で「立派な施設より身近な地域施設を」「学校を開放して地域の生涯学習の場に」「社会福祉と生涯学習の結合を」

が強調されています。市生涯学習振興事業団の発足と、国の「生涯学習振興法」と時期的にもかさなつたことから、市民や市内の学者・文化人から「教育文化活動の産業化・官製化に付合しないか」「国民の教育権・学習権の保障はどうか」など、市民参加、市民主体への危惧が指摘されました。

「市民がつくる、市民が学ぶ、市民が拓く」を標榜する本誌の、その点でのステージアップを期待しています。

読み応えある内容に敬意

佐藤忠次・民社党市議団長

初めて「Stage Up」を手にしたのは昨秋でした。それまで、生涯学習情報誌について「かたい内容」をイメージしていました。同誌の「いまを話す」や「はりきってます」グループ紹介」「市民企画講座」などを読み、多様で豊富な内容と分かりやすい記事に、たちまち愛読者の一人になりました。

国際化・情報化・高齢化の今日、社会は激動し、学ばなければ社会の趣(すう)勢から置き去りにされる時代と認識しております。

ここに「生涯学習の時代」と言われる理由があると考えます。したがって、生涯学習が限られた方々のものでなく、大多数の市民がそれに参加できる条件整備がなによりも求められています。

民社党市議団は、御事業団の皆さんが、読み応えある内容、興味をひく見出し、民間の協力も得て配布するなどのご努力に心から敬意と賛意を表します。

同誌の月刊誌化を祝し、さらに発展することを期待致します。

毎月発行に賛辞贈る

山根堅二・市民同志会市議団長

この種の印刷物を毎月発行するという大事業に心から敬意と賛辞を贈ります。私は発行される都度楽しく読ませてもらいました。有難うございました。

折角の機会を与えられましたので感じたことを二、三申し上げたいと思います。まず文字を統一して大きな文字にした方が読者のためによいのではないかと。ましてこれからの高齢化社会が到来することを計算の中にぜひ、入れるべきだと思えます。

内容については、情報量の多いのには驚きましたが、焦点がぼけているような印象を受けます。できれば整理をして頂き、写真、イラストなどを挿入すれば紙面が柔らかくなり、より以上の成果が期待できるような気がいたします。

いずれにせよ貴誌がますます発展することを祈念し祝辞とさせていただきます。

伝わる主体的市民の生き方

佐藤洋子・ネット市議団長

生涯学習情報誌「Stage Up」の新たなスタート、おめでとうございます。これまでの「Stage Up」を欠かさず読ませていただき多くの市民の方の生きいきとした活動に私自身、元気づけられたことが度々ございました。市民が主役の街づくりと言いますが一人一人の市民の方が主体的に生きていらっしゃるこの素晴らしいですが、この情報誌から伝わってまいります。生涯学習については、各地で市民討議が活発に開催され、今度は「市民演劇サロン」も催されるとのこと、市民の方の自発的な活動が、ここにまた、一つ花開くかと思うと嬉しくなっています。生涯学習の今後の発展については、さまざまな条件整備や情報ネットワークづくりの問題など、課題も多いかと思われませんが、その中で貴情報誌の果たす役割は益々、重要になってくることと思えます。貴情報誌の、これからの益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶に、かえさせていただきます。

小田急線の車内から見える

『新百合トウェンティワン・ギャラリー』にあなたの作品をどうぞ。

小田急線新百合ヶ丘駅から線路沿い(町田駅寄り)へ徒歩2分の新百合21ビルの一階、自由通路の壁面が『新百合トウェンティワン・ギャラリー』。そこに飾られた作品は、小田急線の車内からも“鑑賞”でき、使用料が無料なのも嬉しい話だ。

申し込みは同ビル地下2階の川崎市生涯学習振興事業団(☎044-952-5000)窓口。作品搬入は金曜日の午後1～5時。2週間展示できる。注意したいのは、自由通路なので多くの人が鑑賞できるメリットがある反面、作品の盗難、毀(き)損の恐れもある。同事業団に管理責任はなく、作品展示者の責任で管理する。同ビルに有料駐車場はあるが無料駐車場はない。展示はピックアップレール10本に鎖を下げて行。鎖20本までを無料貸し出しする。

# かわさき★合奏音楽会 公開オーディション

★若い有望な新人の登龍門として開催し、川崎の音楽文化を高める

開催日— 6月28日(日)

会場— 川崎市教育文化会館 大ホール

参加資格— 川崎市に在住、在勤、在学(高校生以上)する15歳以上でオーディション合格後、合奏練習に参加可能な方

演奏種目— ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽、その他主催者が適当と認めたもの(ただし、邦楽は除く)

曲目— 自由曲

審査時間— 1人約5分

費用— 無料(ただし、伴奏は自己負担)

審査員及び合奏指導— 弘中 孝(ピアノ、東京音大教授)・久保陽子(ヴァイオリン、フリー)・  
店村真積(ヴィオラ、読売日本交響楽団)・毛利伯郎(チェロ、読売日本交響楽団)・  
大里洋子(声楽、洗足学園大教授)・及びその他専門審査員(予定)

申込方法— 所定の申込書に必要事項を記入し、住所、氏名を書いた連絡用の官製はがきと封筒(62円切手貼付)を添えてお申込みください

申込期日締切り— 6月7日(日)(当日消印有効、持参は午後4時まで)

合奏音楽会— オーディションに合格された方は、合奏練習後、弘中 孝、久保陽子、店村真積、毛利伯郎各氏など市内在住の音楽家とともに、かわさき合奏音楽会(平成5年1月10日開催予定)に出演の機会があります

申込み問合わせ先— (財)川崎市生涯学習振興事業団  
麻生区万福寺1-2-2 ☎952-5000  
同事業団情報コーナー(教育文化会館内)  
川崎区富士見2-1-3 ☎233-6250

主催— (財)川崎市生涯学習振興事業団

共催— 川崎市教育委員会

# かわさき★サマーナイトコンサート

## ★ 映画音楽とクラシックの名曲 ★



司会・  
大島智子

日時—— 7月28日(火)・ P.M. 6時45分開演

会場—— 川崎市教育文化会館 大ホール

出演—— 指揮者・小松一彦 ソリスト・塩田美奈子  
オーケストラ・新星日本交響楽団 司会・大島智子

曲目—— 「Part I」 映画音楽=風と共に去りぬ, 太陽がいっぱい, スターウォーズほか

「Part II」 オペラ=モーツアルトの曲より(ソリスト・塩田美奈子)

「Part III」 シューベルト「未完成」

入場料—— A席 3,000円 ・ B席 2,000円

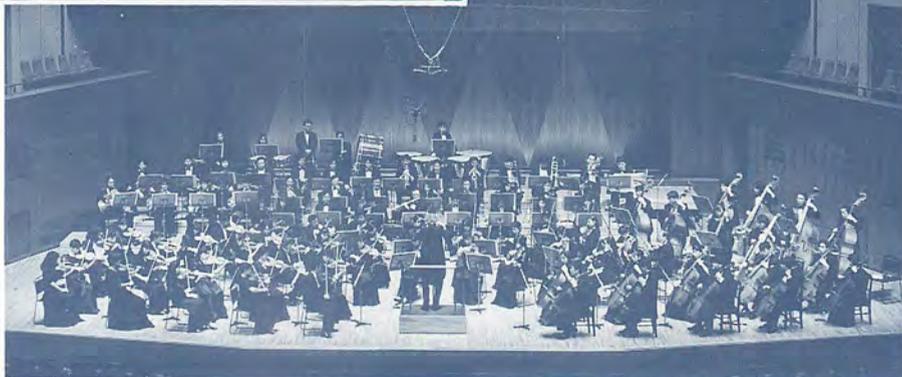
前売—— 6月16日(火) 発売・電話予約開始(4人まで)



ソリスト・  
塩田美奈子



指揮者・  
小松一彦



オーケストラ・新星日本交響楽団

主催—— (財)川崎市生涯学習振興事業団

共催—— 川崎市教育委員会

## かわさき★室内合奏団コンサート

日時—— 10月8日(木)・P.M. 6時45分 開演(予定)

会場—— 川崎市教育文化会館 大ホール

出演—— かわさき室内合奏団メンバー(予定)

弘中 孝・清水和音・久保陽子

店村真積・植木三郎・内田 輝

星 秀樹・堀 了介・中山早苗 ほか

入場料—— 2,000円〈全席自由〉

前売—— 8月30日(日) 発売・電話予約開始(4人まで)



主催—— (財)川崎市生涯学習振興事業団

共催—— 川崎市教育委員会

## かわさき コンサート

申し込み・問い合わせ先—— (財)川崎市生涯学習振興事業団

麻生区万福寺1-1-2

TEL. 044-952-5000

同事業団 情報コーナー

川崎区富士見2-1-3

TEL. 044-233-6250

前売所—— 生涯学習振興事業団、情報コーナー(教育文化会館内)  
市内各市民館、各プレイガイド

# かわさき★エクセレントオペラ

モーツァルト [ **フィガロの結婚** ] リメイク版

日時—— 11月10日(火)・P.M.6時45分 開演

会場—— 川崎市教育文化会館 大ホール



宇野徹哉



大倉由紀枝

【出演】

宇野徹哉  
大倉由紀枝  
佐藤しのぶ  
池田直樹

ほか



佐藤しのぶ



池田直樹

入場料—— S席 5,000円  
A席 4,000円  
B席 3,000円

前売—— 9月25日(金)発売・電話予約開始(4人まで)

主催—— 財川崎市生涯学習振興事業団

共催—— 川崎市教育委員会

# かわさき★ニューイヤー コンサート

日 時——平成5年1月10日(日)・P.M. 2時開演

会 場——川崎市教育文化会館 大ホール

出 演——かわさき室内合奏団メンバー  
オーディション合格者

入場料——1,000円(全席自由)

前 売——11月25日(水) 発売・電話予約開始(4人まで)



主 催——(財)川崎市生涯学習振興事業団

共 催——川崎市教育委員会



昨年(1991)年の演奏から

「川崎市民の生活と学習に関する意識調査」まとまる

68%が学んだ

個人生活尊重型市民が増える

「学習して楽しみ増え、健康で交際範囲広がる」

川崎市民が参加している生涯学習の内容は①健康管理②趣味③職業上の知識がベスト3。また学習して良かったことは①楽しみが増え気分転換になった②健康保持に役立った③交際範囲が広がったの順。川崎市生涯学習振興事業団と川崎市教委は、このほど「川崎市民の生活と学習に関する調査」の集計結果をまとめた。それによると、この一年間に学習した人は68%いた。十年前の学習内容を質問したところ、そのベスト3が①職業上の知識②趣味③健康管理の順だが、この一年間では健康管理が1位。これにスポーツ・レクリエーションを加えると半数を占め、十年前に比べ約一割増加した計算。職業上の知識が、同約一割減少したことを考えると、「会社優先から個人生活尊重型市民」の比重が増加している、と言えなくもない。

高齢化、余暇社会の学習ニーズのために

この調査は昨年十一月、五十歳以上の男女三千人にアンケート用紙を郵送し回答を求めた。回収は一四九五通(49.98%)で、有効回答数は一四八四通(49.66%)だった。昨春まとめた「川崎市民の学習意識調査」は二十歳以上の男女を調査対象にしたが、今回は調査対象を五十歳以上に限定した。これは、前回調査でこの年齢層が生涯学習の経験がもつとも多く、今後、高齢化社会と余暇時代が加速し、いつそう学習ニーズが高まるため。

また従来、学習の概念が講座・

講演など教養的な要素に偏りがちだったが、今調査の特徴は、学習の意味を幅広くとらえ、生活に密着した文化、スポーツ活動をも生涯学習であることを明確にした。市教委は、今調査を今後の「川崎らしさ」をにじませた生涯学習体系の構築に役立てる。

〔余暇を利用した学習〕

ラジオ・テレビの教育番組66%  
▽旅行・行楽61%▽雑誌・定期刊行物41%。次いで小説・専門書・教養書の順(複数回答)。十年前と比べ旅行、美術館、展覧会に行くやカラオケ、CD・レコード、園芸・飼育を楽しむが増えた半面、スポーツ、映画・演劇、地域の会合への観戦・観賞、参加は減った。

〔この一年間に学習した内容〕  
健康管理・病気予防29%(十年前20%)  
▽絵画、民謡、俳句などの趣味26%(同28%)  
▽職業上の知識・技術22%(同30%)  
▽体育・スポーツ・レクリエーション18%(同16%)。「やらなかった」は27%(同17%)だった。

十年前と比較すると、「健康管理」が大きく伸び、「スポーツなど」が増え、「職業上の知識」「やらなかった」が落ち込み、趣味は微減という結果(複数回答)。

休日増と地域交流で学習時代の構築を

〔学習したきっかけと友人数〕  
学習にもともと関心があった50%  
▽仕事上必要になった37%  
▽時間的ゆとりができた32%  
▽夫、妻、友人、知人に誘われて30%(複数回答)。また親しい友人数は三〜五人35%  
▽六〜十人29%  
▽一〜二人11%。

学習に初めて参加する時、自発的意思や必要に迫られてやる人との要因で参加する人とがある。「時間的ゆとり」と「誘われて」がそれぞれ約3割を占め、親しい友人も数人いることに注目したい。



▲いきいきした表情で受講する市民。学ぶことは楽しい！

生涯学習時代を構築するには、労働時間の短縮や週休完全二日制を社会的に保証することが急務であると同時に、家庭や地域で日常的な対話・交流ができる「孤独でない社会」の形成が不可欠であることを示している。

〔学習して良かったと思う点〕

楽しみ、気分転換になった50%  
 ▼健康保持に役立った38%▼交際範囲が広がった36%▼職業や仕事に生かした31%▼専門知識・技術が身についた27%。「良かったことではない」は僅か2%で、生涯学習の市民的認識が素直に表れている。生涯学習の基本原則が「市民がつくる市民が学ぶ市民が拓く」であることは、「川崎市生涯学習推進基本構想」委員長、確井正久・日大教授)で確認している。健康で楽しく学び、友人が広がる自発的学習こそが「川崎らしさ」だと考えてよい。

学習を仕事に生かすことや専門知識の習得は本来、それぞれの企業で保証すべき事柄で、副次的意義といえなくもない。

高齢者が参加するには  
 身近な学習施設が必要

〔学習に使える時間と距離、自由に使えるお金〕

平日だと二〜三時間が21%▼一〜二時間が18%。学習に出掛けられる範囲は片道三十分〜一時間が30%▼十五〜三十分が28%。自分が自由に使えるお金は月額二〜五万円が32%▼一万五千〜二万円が18%。▼一万円未満は16%。

高齢者になるほど出掛けられる範囲が狭まり、身近な学習施設が参加の必須条件といえそう。

〔配偶者と一緒に学習したか〕

この一年間に夫婦が一緒に学習した人は僅か7%。配偶者が学習をしたと認識している人は39%で、先の質問で「学習をした」と答えただ人が68%あり、学習における夫婦間の意思疎通が不十分。

夫婦一緒にの余暇活動は、趣味・創作、文化教養、地域・ボランティアとも「ほとんどしない」が約半数。無回答も多い。運動・レクリエーションだけが、ときどきする39%▼よくする21%▼ほとんどしない19%。しかし、これら学習活動への配偶者の理解は高く、よく協力51%▼協力も干渉もしない34%だった。

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演



市外局番のないものは044

学習・文化情報

「国際話エスプレント講習会◆総合自治会館」5月8日～7月10日の毎週金曜日19～21時。全10回。語学ゲームを使った教授法で楽しく学ぶ。最低限の日常会話が出来るようにするのが目標。受講料は一般6千円、学生3千円。川崎エスプレント会主催。会場は武蔵小杉駅より徒歩5分。申込みは18時以降に☎5331906の北川さん宅。

「男のかたの料理教室、コース講座、郷土史講座、カラオケ講座◆宮前老人福祉センター」▽男のかたの料理教室はみそ汁、干物の焼き方など初心者向け。6月4、18日9時半～12時の2回。定員16人。材料費9百円。申込みは5月1日から▽コース講座は6月18日～8月6日10～12時。全7回。講師は柏賀君子さん。定員30人。参加無料。申込みは5月6日から▽郷土史講座は6月19日～7月17日の毎週金曜日10～12時。全7回。講師は上田恒三さん。定員30人。教材費百円。申込みは5月6日から▽カラオケ講座は6月24日～7月29日13時半～15時半。全6回。

講師は川村善一さん。定員25人。教材費千円程度。申込みは5月25日から。各講座とも先着順、対象は市内在住の60歳以上。申込みは☎8779030の同センター。

「ギター入門、マンドリン入門、ヨーガ入門、レクリエーションクラブ研修会◆泉立高津青少年会館」▽ギター、マンドリン入門は5月13日～6月10日の毎週水曜日。全5回。定員各10人▽ヨーガ入門は5月28日～6月25日の毎週木曜日。全5回。定員15人。いずれも18時半～20時半。対象は18～30歳の男女▽レクリエーションクラブ研修会は5月16日～6月20日の毎週土曜日18時半～21時と6月28日10～16時。全7回。手作りおもちゃの作り方や遊び方、指導法を研修。対象は青年。定員20人。いずれも申込みは☎8442101の同館。

「家庭教育学級、幸シルバークラス、幸ミセスサロン◆幸市民館」▽家庭教育学級は5月8日～7月10日の毎週金曜日10～12時。全10回。思春期の子どもを支える家族の心の触れ合いの大切さを学ぶ。講師は子ども10番電話相談員・安達倭雅子さん他。対象は小・中学生を持つ親。定員40人。受講料は無料、見学費の実費が必要。受付け中▽幸シルバークラスは5月13日～7月15日の毎週水曜日13時半～15時半。全10回。地域の歴史や福祉、健康、趣味について見学を盛り込んだ講座。対象は区内在住の65歳以上。定員50人。受講料は無料、見学費の実費が必要。申込みは5月7日10時から▽幸ミセスサロンは5月21日～7月16日の毎週木曜日10～12時。全9回。知的でさわやかな女性を目指す。受講料無料。申込みは5月14日10時から。いずれも☎5413910の同館。

「ワークセミナー」勤労女性大学「世界が変わる働き方が変わる◆県立勤労女性会館」前期・5月17日～7月30日、後期・8月26日～10月28日。18時15分～20時15分。主に水曜日。各期13日間。半期の受講可。女性の動き、政治経済、人権、育児休業法、派遣労働、年金などについて講義。講師はお茶の水女子大助教授・江原由美子さん他。定員60人。受講料は半期で2575円。申込みは☎5110451の同館。

「社会人学級◆中原市民館」5月12日～平成5年2月16日の毎週火・水・金曜日18時15分～20時15分。全80回。さまざまな理由で十分学習出来なかつた方を対象に、中学1年程度の学習レベルで国語・数学・英語を中心に学習。受講料は無料、教材費は自己負担。対象は市内在住で15歳以上。定員30人(全科目を履修できる方)。希望者は4月28日(火)18時15分、同館の説明会に出席。申込みは☎72217171の同館。

「春の成人学校◆岡上分館」▽デッサンは5月15日～7月17日の毎週金曜日10～12時▽古典文学▽義経伝承の世界は5月14日～7月16日の毎週木曜日14～16時。いずれも受講料3千円。対象は市内在住で15歳以上。申込みは5月8日10時に直接来館。詳しくは☎98800268の同館。

「日本語クラス◆麻生市民館」5月21日～平成5年3月18日の毎週木曜日10～12時。全30回。日本語を覚えてたい外国人が対象。初心から中級程度。講師は日本語ボランティアグループ。定員25人。教材費7500円(分割可)。3歳以上の児童の保育有り(6360円)。同館は☎9511300

「ニューカップルセミナー◆麻生市民館」5月9日～30日10～12時。

学習・文化情報

参加したい催しがある

出産や育児を初めて体験する不安や悩みの解消講座。対象は初めて出産を迎える夫婦(1人も可)。受講料無料。申込みは5月7日までに☎951-1300の同館。

「ぼうけんクラブ◆麻生市民館」

6月13月の月1回の日曜日。野外活動や工作を通して、子どもたちの心身を豊かにするのが目的。対象は区内在住の小学4、6年生。定員各学年10人。教材費3千円。申込みは5月30日15時に直接来館。同館は☎951-1300。

「青少年指導者プログラム研修◆黒川青少年野外活動センター」

6月6(土)～7日(日)。キャンプの道具、計画、キャンプファイヤーなど、子供の集団生活に役立つ内容。キャンプ初級指導者の単位も取れる。講師は野外活動研究会。申込みは5月20日10時より☎951-1300の麻生市民館(主催)。

「男とおやじの家族考く夫と妻のコミュニケーション◆麻生市民館」

5月23日～平成5年3月20日。おもに第2土曜日から日曜日。父親同士の楽しい交流を講演会、家族交流会、地域探訪を通して深め、父親の家庭や地域での役割、生き方などを考える。対象は区内在住のお父さん。定員40人。受講料は無料、保険料5百円、教材費は実費。申込みは5月16日10

時より☎951-1300の同館。

「高齢者地域福祉講座◆川崎区役所」

5月12日～7月14日の毎週火曜日10～15時。全10回。講義、演習、実技を行い地域福祉活動の情報を提供。対象は60歳以上。定員50人。申込みは4月30日までに☎976-9001の高齢社会福祉総合センター・研修指導係(主催)。

「川崎労働学校◆中小企業・婦人会館」

5月25日～7月16日18時15分～20時15分。全12回。労働法の基本問題を集。定員先着百人。受講料2千円。8回以上の出席者に修了証書を授与。申込みは5月15日から☎222-4416の労働会館(主催)。

「家庭教育学級く中学生を持つ親のための講座、高齢者教室くあなた、出番です!自分でつくる自分の生きがい◆多摩市民館」

▽家庭教育学級は5月13日～7月22日の毎週水曜日10～12時。全10回。思春期の心身の成長発達、子どもを取り巻く問題、親子関係などを学ぶ。対象は中学生をもつ親、関心のある方。受け付け中▽高齢者教室は6月4日～7月23日の毎週木曜日の午後。全7回。地域の人に、高齢者の知識や技能を伝えやすくするために、その社会的役割と生きがい、学習ボランティアについて学ぶ。受講料無料。対象は60歳以上。定員先着30人。申込みは5月

20日から。いずれも☎900-3020の同館。

「もう一步、前へく自らの生きがいのために◆川崎授産学園」

5月19日(火)10～12時。講師は横浜国際福祉専門学校長・重田信一さん。定員50人。参加無料。申込みは☎954-5011の同園。

催し



「やなせ・たかしの世界展、濱田庄司が会った棟方志功展◆市民ミュージアム」

▽やなせ・たかしの世界展は8月末まで。アンパンマンの生みの親・やなせたかしの漫画の原画、詩画、絵本を展示、大人から子どもまで楽しめる。入場料は一般3百円、学生百円▽棟方志功展は



観音経仮面「摩睺羅」(まごら)

6月14日まで。「大和し美し」東北経鬼門譜」など版画130点、肉筆画20点を展示。入場料は一般7百円、学生3百円。4月29日14時より作家・長部日出雄さんの講演「志功を語る」と毎日映画コンクール教育文化映画賞受賞作品「彫る・棟方志功の世界」を上映。入場無料。定員先着270人。申込みは☎754-4500の同館。

「16ミリ映写技術講習会◆幸市民館」

6月6日(土)13時半～16時半と7日(日)9時～16時半の2日間。対象は市内在住在勤で15歳以上。定員40人。受講料は無料、テキスト代5百円。申込みは5月24日10時から☎541-3910の同館。

「草花あそび◆青少年科学館・生田緑地」

5月10日(日)10～15時。雨天決行。身近な草花で笛や水車などを作る。講師は横浜植物会運営委員・吉田多美枝さん。対象は小学3～成人。定員10人。申込みは☎922-4731の同館。

「自然観察会く雑木林の夏鳥・寺家◆横浜市寺家」

6月7日(日)(雨天の時は14日)10時、小田急線柿生駅改札口に集合。講師は日本野鳥の会会員・佐野悦子さん。対象は小学4～成人。定員20人。申込みは5月16日から青少年科学館☎922-4731(主催)。

学習・文化情報

参加したいスポーツがある

「プラネタリウム◆青少年科学館」5月の話題は「銀河系の姿」。1回約45分。投影開始時間は▽火曜日は15時▽土曜日は13時半、15時▽日曜・祝祭日は10時半、12時、13時半、15時。定員238人。大人100円、子ども50円。30人以上の団体予約は半額。同館は☎922-4731。

「生田緑地の四季」中井寿一写真展◆青少年科学館」5月1日～7月16日。生田緑地の四季を紹介。同館は☎922-4731。

「サークル祭◆中原市民館」▽書道・絵画・版画・陶芸の展示は5月15～20日10～16時、市民ギャラリー。16、17日10～16時、3階各室▽ダンス・着物着付けは16日14～16時、17日10～16時、ホール▽ほかに煎茶・開基・体操などの活動発表が16、17日10～16時にある。同館は☎722-7171。

「文学と歴史展◆高津図書館」同館の短歌・俳句・文歴サークルの作品展。5月19～24日10～16時。但し19日は13～16時、24日は10～15時。同館は☎822-2413。

「小学生天文教室、中学生天文教室、天文クラブ、生物教室◆青少年科学館」▽小学生天文教室は毎月1回土曜日17～20時。対象は小学4～6年生。定員20人▽中学生天文教室は毎月1回日曜日17時～20時半。定

員15人▽天文クラブは毎月1回日曜日16時～21時半。対象は高校生▽成人▽生物教室は毎月第3土曜日14～16時。対象は小学4～6年生。定員30人。いずれも1年間継続して出席出来るのが条件。申込みは☎922-4731の同館。

スポーツ



「少年スポーツ教室(体操)、小年スポーツ指導者研修会◆川崎市体育館」▽少年スポーツ教室は5月19日～9月29日の毎週火曜日16時～16時50分。全12回。マットやトランポリンなどを使う。対象は小学1～4年。定員60人。受講料無料。申込みは5月12日16時に直接来館▽少年スポーツ指導者研修会は5月23日(土)13～16時。ストレッチングやテーピングの仕方を指導。対象は体育指導員や高校生以上。講師はスポーツ指導員・大森正子さん他。定員40人。受講料無料。申込みは5月9日13時に直接来館。同館は☎200-0132

「柔道、剣道、少林寺拳法、なぎなた、合気道◆石川記念武道館」▽柔道は5月14日～6月16日の火曜と木曜18時～19時半。定員20人▽剣道は5月14日～7月21日の火曜と木曜16時半～17時半。定員30人▽少林寺拳法は5月16日～7月18日の土曜日18時～19時半。定員30人▽なぎなたは5月16日～7月18日の土曜日15時～16時半。定員20人▽合気道は5月19日～6月20日の火曜と土曜18時～19時半。定員30人。いずれも対象は小・中学生以上。受講料は無料、毎回入館料50円が必要。申込みは5月10日10時に直接来館。同館は☎544-0493。

「若返り健康体操、指導者研修会◆麻生スポーツセンター」▽若返り健康体操は5月16日～7月18日の毎週土曜日13時半～15時半。軽い体操で姿勢、体質、内臓機能の向上を目指す。講師はスタジオN A F Aインストラクター。定員40人。受講料無料。申込みは5月2日13時半に直接来館▽指導者研修会は5月19日～7月21日の毎週火曜日18時半～20時半。ウェアエティに富んだカリキュラムで、高齢者スポーツの指導者の資質向上を目指す。講師はスポーツ指導員有志。定員40人。受講料無料。申込みは5月12日18時半に直接来館。いずれも対象は市内在住の15歳以上。詳しくは☎951-1234の同センター。

「健康体力相談◆3カ所のスポーツセンター」健康、体力に自信のない方に専門家が運動処方・トレーニングを指導▽川崎市体育館(☎200-3255)は毎週金曜日18時～19時半▽幸スポーツセンター(☎555-3011)は第2・3・4土曜日16～18時。受講料無料。講師は日本体操研究所・田実睦美さん他。相談日の前日19時まで電話申込み。▽麻生スポーツセンター(☎951-1234)は毎週土曜日18～20時。使用料1回120円。講師は運動生理学者他。

ギャラリー



「中原市民館」▽5月1～6日：水墨画展(中原創墨会)▽同8～13日：陶芸作品展(小杉陶芸研究会)▽同15～20日：同館サークル祭発表会▽同22～27日：川崎のこども版画展(川崎教育版画の会)▽同29～6月3日：書道展(静湖書道研究会)詳しくは☎722-7171の同館。

「麻生市民館」▽5月1～6日：陶芸展(新百合陶芸くらぶ)▽同8～13日：パンフラワーと人形(クラフトミワ)▽同15～20日：日本画習作展(萌の会)▽同22～27日：水道週間・川崎市小・中学生学生作品コンクール展▽同29～6月3日：パッチワークキルト展示会(H A R Iの会)同館は☎951-1300。

「健康体力相談◆3カ所のスポーツセンター」健康、体力に自信のない方に専門家が運動処方・トレーニングを指導▽川崎市体育館(☎200-3255)は毎週金曜日18時～19時半▽幸スポーツセンター(☎555-3011)は第2・3・4土曜日16～18時。受講料無料。講師は日本体操研究所・田実睦美さん他。相談日の前日19時まで電話申込み。▽麻生スポーツセンター(☎951-1234)は毎週土曜日18～20時。使用料1回120円。講師は運動生理学者他。

会員募集

●アムネスティー・インターナシ

ヨナル川崎グループ《麻生区万福寺  
1-12-3-303、上原慶子代表》

ノーベル平和賞受賞者アウン・サン  
・スーチーさんの支援など世界中の  
人権侵害を考え、行動しています。  
月1回水曜18時半-21時、県立川崎  
青少年会館で。連絡先は☎9553-  
2790の同代表宅へ。

●麻生コーラスもくせい会《多摩

区菅北浦2-25-11、村田和子代表》  
美しいハーモニート豊かな感性を育  
み、生活に潤いができます。歌が大  
好きな方は非どうぞ。月4回水曜10  
-12時、八千代銀行百合丘支店2F  
で。連絡先は☎944-4864の  
同代表宅へ上日を除いてお願いしま  
す。

●教文盆栽研究会《川崎市大島上

町1-6-9、内田政明代表》盆栽  
技術を習得し、親睦をはかっていま  
す。小さな器の中から、山川草木の  
自然の姿を再現してみませんか。月  
2回第2・4水曜午後、教育文化会  
館で。連絡先は☎333-6415  
の同代表宅へ。

●古典文学研究会《幸区河原町1

2-305、小島幸子代表》目的  
は源氏物語全巻の読破です。現在「若

菜下巻」を読んでいます。月2回第

2・4水曜14-16時、教育文化会館  
で。会費は千五百円。連絡先は☎5  
22-5441の同代表宅へ9時半  
までか18時以降にお願いします。

●水墨画研究会《川崎市渡田新町

3-13-4、吉田実代表》運筆や墨  
の濃淡の書き方を学び、画の中に心  
の表現ができるよう研究しています。  
一度見学にいらっしやいませんか。  
月2回第1・3日曜13-15時半、教  
育文化会館で。連絡先は☎366-  
3084の同代表宅へ上日を除く20  
時以降にお願いします。

●ジャギー《高津区下作延107

7-3、青木美沙子代表》健康維持  
と会員相互の親睦を深めています。  
若さを保つため、積極的に参加され  
る方をお待ちしています。月4回毎  
週水曜9-10時半、高津市民館で。  
連絡先は☎865-1570の同代  
表宅へ18時以降にお願いします。

●木の会《婦人学習グループ》

《麻生区金程2-16-12、川合和子  
代表》暮らしの中の女性に関連した  
諸問題を話し合い、学んでいます。  
楽しみながら学びませんか。月1回  
第2木曜午前中、麻生市民館会議室  
で。連絡先は☎966-6597の  
同代表宅へ18-21時にお願いします。

●幸みずえ会《中原区上小田中9

36-1-208、和田秀定代表》

水彩美術に関する知識や技術を学ん

でいます。興味のある方は見学にい  
らして下さい。月4回(1回は野外  
スケッチ)金曜13時半-16時、中原  
市民館で。連絡先は☎722-07  
15の同代表宅へ。

●川崎史游会《中原区新城中町19

23、山沢武夫代表》郷土史に興味  
のある方は共に学び、歩きませんか。  
月1回第3日曜9時半-12時、教育  
文化会館で。連絡先は☎866-2  
553の杉村敦子宅へ18時以降にお  
願いします。

●高子会《中原区新丸子町745、

百瀬淑博代表》社会教育活動を通じ  
て知識や教養を高めています。生涯  
学習に意欲のある方をお待ちしてい  
ます。月2回第1・3金曜13時半-  
16時、中原市民館で。連絡先は☎7  
22-6584の同代表宅へ上日を  
除く18時以降にお願いします。

●中原かうんせりんぐ研究会《中

原区宮内419、田中敏子代表》話  
し合いの中から、よい人間関係を築  
くことを学んでいます。女性だけの  
グループです。月1回第4金曜13-  
17時、中原市民館で。連絡先は☎7  
51-7149の同代表宅へ20時以  
降にお願いします。

●多摩ジャギー教室《多摩区中野

島4-22-3-403、井上和子代  
表》日頃の運動不足を解消し、軽快

な音楽に合わせて、心身をリフレッ

シュします。毎週木曜10時40分-12  
時、多摩市民館体育室で、連絡先は  
☎944-7397の川瀬美和子宅  
へ22時までお願いします。

●文学散歩《多摩区生田5-22-

4、三浦敦子代表》近代文学を通し  
て、より深く人間の生き方を理解し  
ます。講師は東大助教授の小森陽一  
さんです。一緒に学びませんか。毎  
月第2水曜13時半-16時、川崎市民  
涯学習振興事業団で。連絡先は☎9  
55-1765の同代表宅へ18時以  
降にお願いします。

●高津七宝焼同好会《高津区末長

1071、柴垣直行代表》作る楽し  
み、使う楽しみ、贈る楽しみのある  
七宝焼。これを通じて、仲間との親  
睦を深め、地域の文化交流を目指し  
ています。月3回土曜午後、高津市  
民館で。連絡先は☎866-882  
0の同代表宅へ火曜を除く18時以降  
にお願いします。

●萬華鏡の会《多摩区寺尾台1-

5-3、芳忠復子代表》短歌は時代  
を写す民衆の声です。豊かな人間性  
を育み、愛と平和への認識を高めて  
います。月2回水曜10-12時(万葉  
講座)と木曜13-16時(歌会)、多  
摩市民館で。連絡先は☎966-6  
971の同代表宅へ上日を除いた午  
前中にもお願いします。

# どくしゃの声

市民の声吸い上げた講座を

川崎市麻生区片平 白鳥あかねさん

公開討論会「尊厳死を考える」の記事、興味深く拝読しました。誰

## ご協力に 感謝します

お陰さまで月刊「Stage Up」の  
配布場所が121カ所に広がりました

しもが人生の終末をどのように迎へたいのか真剣に考える必要があることをアピールする大変よい企画です。生涯学習は市民からの内なる声を吸い上げる努力をしなければ空転する恐れがあり、市民が気軽に参加し、発言できる雰囲気づくりを第一に考えてください。

「Stage Up」の無料配布場所は5月号から、新たに電力会社と書店のご協力を頂き、計百二十一カ所になりました。今後も市民のみなさまのご協力で配布場所を広げたいと願っています。

- 小売店 さいか屋川崎店▽ヌマヤ川崎店▽イトーヨーカドー溝口店
- 金融機関 川崎信用金庫本店と川崎市内の全支店(川崎地下街出張所・小田支店・京町出張所・大島支店・大師支店・渡田支店・遠藤町支店・加瀬支店・小倉出張所・鹿島田支店・古市場出張所・御幸支店・新城支店・住吉支店・武蔵小杉支店・新丸子出張所・平間支店・宮内支店・向河原支店・梶ヶ谷支店・子母口支店・高津支店・二子新地出張所・野川支店・有馬支店・向ヶ丘支店・稲田堤支店・宿河原支店・中野島支店・長沢支店・登戸支店・柿生支店・百合丘支店)▽横浜銀行川崎市内

### 尊厳死、家族と考えた

川崎市多摩区西生田 香村さん

「尊厳死を考える」に参加し、終末の在り方について考えさせられ、その時がきたらどうすべきかを、家族と考える良い機会を得ました。

### 充実した尊厳死の討論

名古屋市西区樋の口町 主婦 大野道子さん たまたま、「Stage Up」3月号に接し、公開討論会「尊厳死を考える」を一気に読みました。市民が自主的に考えた素晴らしい企画で、討論の内容もとても充実していたと思います。

- の全支店(川崎支店・大島支店・大師支店・御幸支店・鹿島田支店・武蔵小杉支店・新城支店・元住吉支店・溝口支店・鷺沼支店・川崎北部市場支店・登戸支店・稲田堤支店・生田支店・読売ランド駅前支店・百合丘支店・新百合ヶ丘支店・柿生支店)
- ▽住友銀行川崎支店・宮崎台支店・新百合ヶ丘支店▽さくら銀行溝口支店・柿生支店
- 鉄道 J R川崎駅▽J R登戸駅
- ▽東京急行日吉駅
- 医療機関 市立井田病院▽市立川崎病院▽聖マリアンナ医科大学病院
- ▽つつみ歯科新百合ヶ丘
- 電力会社 東京電力川崎支社・高津営業所・生田営業所
- 書店 文学堂本店(京急川崎駅横)
- 公共施設 教育文化会館▽情報コーナー▽幸市民館▽高津市民館▽中原市民館▽宮前市民館▽多摩市民館▽麻生市民館▽養生分館▽岡上分館

- ▽県立川崎図書館▽幸図書館▽高津図書館▽中原図書館▽宮前図書館▽多摩図書館▽麻生図書館▽市民ミュージアム▽日本民家園▽青少年科学館▽市立体育館▽石川記念武道館▽幸スポーツセンター▽麻生スポーツセンター▽青少年の家▽青少年創作センター▽青少年センター▽市役所▽川崎区役所▽幸区役所▽中原区役所▽高津区役所▽宮前区役所▽多摩区役所▽麻生区役所▽福祉パルあさお▽労働会館▽エポックなかはら▽中小企業・婦人会館▽総合自治会館▽市民プラザ▽労働資料室▽消費生活センター▽ヨネッティー堤根▽ヨネッティー王禅寺▽産業振興会館▽フルーツパーク▽緑化センター▽県立勤労女性会館▽神奈川第二中高年齢労働者福祉センター「サンライフ川崎」

(この他、老人いこいの家に若干部数置いてあります。)

# 三三三エッセ

**神奈川新聞が「Stage Up」**  
を評価 3月20日付け、神奈川新聞の多摩田園面がトップで「文化・芸術情報も満載」、「ステージ・アップ最新号が発刊 生涯学習の友に」と小誌の写真も掲載し報じた。

記事は、「好評の連載『ほんねインタビュー』いまを話す」には彫刻家で文化勲章受賞者、圓勝三さんが登場。修業4年目で兄弟子を技術的に超えてしまったなど、さまざまなエピソードが語られている。「今回から高橋清川崎市長のエッセー」思いつくままも新たに掲載。高橋清・川崎市長は都会の生活の中に見え隠れする季節の移り変わりを、軽妙なタッチで描いている」といった調子。

**コンサートプロデューサーの伊藤準子さんを「読売」「くらしの窓」が話題に** 小誌新春号の「ほんねインタビュー」に登場した麻生区の主婦で、OLからコンサートプロデューサーにデューダした伊藤準子さんを、読売新聞とくらしの窓(小田急沿線のミニコミ紙)が相次いで大きく取り上げられた。読売は「若手音楽家を支援、くらしの

窓が「若い音楽家育てたい 地域にオペラの輪を」が見出し。

伊藤さんは、このほど、優れた新進オペラ歌手によるサロン・コンサート(例会年4回)を、小田急線新百合ヶ丘駅近くのカフェ・レストラ「貴賓館」で聴く会「ヴィヴィエヌ・オペラ……サロン」をつくり、会員を募集している(問い合わせは☎044-988-9436)。川崎市は新百合ヶ丘地区の「芸術のまち」構想を推進しているが、伊藤さんの試みは「市民による芸術のまちづくり」といえそう。

**燃えた「ジャズコンサート」** 3月21日夜、新百合21ホールで開いたジャズコンサート「澄淳子&松井洋クインテット」(当事業団主催)に350人の観客が聴きほれた。おなじみの「Cheek to Cheek」kTokyoPegi「Diana」

「明日に架ける橋」やオリジナルの「若妻んぼ(ワカツマンボ)」など約20曲。市民は澄淳子のハスキーな歌声にしびれ、しゃれたトークに笑った。テナーサクソスが体をかけ抜け、ドラムが会場を揺るがし、拍手が何回も出演者を称えた。

この日は、雪まじりの寒い天候。観客の入り心配されたが「ジャズ復活」を示す入り。事業団は、これに先立ち、初めてカラフルなチラシ数万枚を作り新百合ヶ丘駅前などで配り、小誌3月号でPRを使うなどかってないPRに努めた。



▶熱唱する澄淳子さん

## 発行 財団法人 川崎市生涯学習振興事業団

〒216 川崎市麻生区万福寺一の二の二 新百合21ビル  
電話(044)951-5000 FAX(044)951-3350  
田 中 園

## 同事業団生涯学習情報コーナー

〒210 同市川崎区富士見二の一の三 教育文化会館一階  
電話(044)233-1650

## 編集後記

今号の小誌は月刊誌記念号として、前号の2倍の32ページにし、表紙もカラーにしてお届けします▼「隔月発行では情報誌の役割を果たしていない」と多くの市民からご指摘を受け、

夏と新春を除き月刊発行に踏み切りました▼高齢者から「文字をもう少し大きくして読みやすく」とのご要望にも1部の記事を除き実施しました▼「月刊誌になつたら内容が薄くなった」と批判されないよう、気を引き締め頑張ります▼ところで3月18日、日本医師会は尊厳死を認める報告書を発表しました▼それに先立ち小誌3月号は、市民が企画した公開討論会「尊厳死を考える」を4ページ特集しました▼多くの読者から「タイムリーな企画だった。あの記事を読んでいたので新聞、テレビの報道に興味深く接した」とお褒めの言葉を頂戴しました▼これは「尊厳死を考える」の企画をし、パネラーの先生方に出席を依頼、公開討論会を実現させた前年度の当事業団市民企画講座スタッフの努力によるものです▼「Stage Up」は、今後とも市民のみならずと一緒に考え、ともに歩む生涯学習情報誌です。お気軽にご意見をお寄せください。

「みなさまに信頼いただける  
そんな東京電力でありたい」



明日をひらくエネルギー  
**東京電力**

わたしたちは「ありがとうございます旬間」で  
日頃のご愛顧にお応えしたいと思います。

《おもな旬間行事》

- ① TEPCOスプリングコンサート  
(川崎駅前ルフロン広場)  
●「スクリーンミュージックのタペ」  
5月15日(金) 18:00~19:30
- ② TEPCOクリーンアップ作戦  
●多摩川河川敷清掃とアトラクション 5月10日(日)  
●川崎駅前クリーンアップ大作戦 5月13日(水)
- ③ 一人暮らしのご老人宅屋内配線診断  
旬間中に随時実施します。



**ありがとうございます旬間**

● お問い合わせは 東京電力川崎支社  
☎044-246-7502

水道水は一番飲み慣れた水 だから 安全に健康的に...



酸性になりがちな体をアルカリイオン水は弱アルカリ性にして健康体にします。弱酸性のアストリンゼン水は美容に優れた働きがあります。

「ミネバランス」はアルカリイオン水とアストリンゼン水を同時につくる健康と美容になくしてはならない生成器です。

料理やお茶、コーヒー、紅茶、炊飯など用途は多様

健康を考えるなら  
ミネバランス  
整水器は常識です

全自動アルカリイオン電子整水器  
**ミネバランス**

水を科学するヘルシーマシン

標準小売価格 148,000円  
(消費税・取付け工事費別)

**AKAI** 赤井電機株式会社

パンフレットを無料でお送りします  
フリーダイヤル ◆月~土曜9~20時  
**0120-096-608**

代理店  
株ヒューマンテックコーポレーション  
〒215 川崎市麻生区万福寺1-8-7-306  
TEL・FAX 044-954-4151